

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で考えた『大切な人にこの場所を・・・』の理念がありホームに明記している。又職員が毎日必ず読む連絡ノート等の表紙に貼り付いている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	十四軒町の理念と法人の理念は、新人研修やその他さまざまな研修、勉強会等により、共に日々実践に向けて取り組んでいる。そして、日常業務の中で常に振り返り、確認し合っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関エレベーターホールに提示しており、事業所や自治会行事を通し、日頃から理解が得られるよう取り組んでいる。毎月家族に出す手紙にも理念を明記している。	○ 引き続き、行事に取り組んだり、広報紙などを作成し、更なる理解が得られるよう努めていきたい
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内参加や、十四軒町の間を提供、毎日外出する事により、職員だけではなく、ご利用者にも挨拶していただき、隣近所の方々との交流に努めている	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地蔵盆に会場を提供し、地域の一員として、地蔵盆に参加したり、地域の方々と交えて防災訓練や町内のスポーツ大会、古紙回収にも参加し、広報誌も配布。町内の方が企画して下さい、もちつき大会なども開催している	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の場で、民生委員や地域包括支援センターから、情報を得て、共に地域貢献に向けて話し合いながら取り組んでいる		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員が自己評価に取り組み、又外部評価後も改善内容などを一覧にし理解すると共に、運営推進会議などの場でも報告し向上に向けて取り組んでいる。他にも、定期的に各部署の責任者や相談員などが、自主点検などを行っている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、家族、利用者がメンバーとなり、2ヶ月に一回運営推進会議を実施し、現在の取り組み内容などの報告以外にも、前回の取り組み結果などについても報告している		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回連絡会などに参加し、以外の勉強会や研修などがあれば積極的に参加し取り組んでいる	○	高齢者率の高い地域でもあり、高齢者の二人暮らしや認知症の家族を介護している世帯も多い事を考えると、参加だけではなく、もっと連携を強め、共に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修以外にも、年1回以上勉強会や研修に参加できる機会がある	○	十四軒町以外で、健光園ももやまでの講師を招き研修を行っているが、もっと多くの職員が年1回以上参加できる機会を設けたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修以外にも、年1回以上勉強会や研修に参加できる機会がある	○	十四軒町以外で、健光園ももやまでの講師を招き研修を行っているが、もっと多くの職員が年1回以上参加できる機会を設けたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に行う面接でも尋ねており、入居直前の契約時にも、再度説明や不安点など尋ねている。解約時にも、話を聞く機会を設け納得を図る努力をしている	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会議にご利用者が参加される他、日常的に意見、不満などを聞く機会を設け、運営推進会議等の時にも意見を尋ね取り組んでいる。今までも、散歩の時間帯などの不満があれば、すぐに利用者と一緒に希望の時間や回数に応えられるよう取り組んできた	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時以外にも、電話や個別で送っている手紙や写真などで報告している。広報誌も発行しており、ホーム内の様子が分かる内容にもなっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口については、重要事項説明書にも記載している。各階苦情ボックスを設置したり、些細な意見も書きとめ、反映に努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場以外でも、日常的に聞き取りや、意見交換などの場がある	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状態の変化や要望に合わせて、柔軟な対応ができるよう、勤務時間を調整している	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	シフトに余裕がある事、休憩が確保している事、希望休に対応している事が、離職を防ぐ要因となっている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎年全職員に研修計画書を尋ねており、研修案内は全職員確認できる場に提示している。自主的な研修希望以外にも、必要な研修を随時、同じ法人内でも計画している。資格取得に対しても、勉強会など行い支援している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣の事業所と一緒に、認知症サポーター養成講座を開催するなど、共に取り組んでいる</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩室を確保し、休憩時間の確保以外にも、年数回所属を越えた交流会を行っている</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>希望の研修があれば、参加できるよう勤務調整をしたり、業務以外でも参加している。自主研修以外にも、それぞれレベルにあった研修に参加し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>日頃から1対1で関わる時間を大切にし、ゆっくり話を聞き、何事も受け止められるよう、職員間での情報の共有に努めている</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談を受けてから、利用までの間、手紙や電話で状況を尋ねている。又、面接はお住まいである自宅で行い、ゆっくり話を聞く時間を作り、契約時にはホームで行い、不安や求めている事など聞いている</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係者などから話を聞き、都度カンファを行い、相談員やケアマネを中心に、変化に応じたサービスか希望に沿ったサービスか必要なサービスかを検討している		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に併設のDS利用されている方であれば、挨拶などを通し顔を覚えていただいたり、ご自宅に現場職員が出向いたり、又入居前に見学をお勧めしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	会話などコミュニケーションを大切とし、利用者主体のケアに努めている。センター方式やカンファレンスで常に話し合い、日常的に利用者本位の視点を心がけている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人を支える同じ立場である事を意識しながら関係作りに努めている。何かあれば家族と相談し、共に考え検討していく事を心がけている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	橋渡しの存在を心がけ取り組んでいる。本人と今までどおりの関係が保てる事と、職員に今までの思いなどを打ち明けられるような関係作りを心がけている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に情報などを聞き出し、入居後、自宅へ帰ったり、馴染みのお店やお寺へ出かけたり、一人ひとり思い出の場所に出向いたりできる体制をとっている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	話好きの人や、一人でテレビを見ていたい人など性格や認知症状を把握した上で、利用者同士の関わりについて支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了したご家族が立ち寄ってくださったり、職員や入居者の顔を見に来てくださっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用申し込みにより、フェースシートに医療情報、認知症スケール、家族構成などが記録される。センター方式により、生活歴や日課や希望などを把握し、意向に沿ったケアプランを作成し、毎日確認している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から聞き出したり、カンファやセンター方式により、把握に努め、又ご家族との関係作りにより、日常会話の中からも情報収集を行い、その情報は共有できるよう話し合う場がある	○	一人暮らしだった方が多い事から、生活歴の情報収集などが少ないので、今後も日常生活から、日々情報収集に努める
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居前や入居後に日常会話などから、に本人や家族から聞き出したり、カンファレンスやセンター方式により、把握に努めている。又、日々の記録や連絡ノートに記入するなど、把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時には、関係者と話し合い、アセスメントの結果をふまえて、定期的な話し合っている。センター方式も用いて、検討した事を記録に残す事で反映させ、日常生活からも情報を得ながら、ケアプランを確定している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化がなくても、半年に1度見直している。状態に変化があった場合については、本人や家族に状況を説明し、関係者を交え話し合いながら、随時新たなケアプランを作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、多くの情報を記入し実施している。共通の用紙もあるが、必要に応じ、職員間で話し合い、個別の記録も作成し、実践、結果、気づきなどが分かりやすいようにしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎日その日の様子を報告したり、毎月の状況などの報告しあう機会もあり、柔軟が対応ができるよう体制を確保している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議で報告したり、意向に沿えるよう随意呼びかけしている。そして、施設内だけの生活にならないよう支援している		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	運営推進会議やその他の会議の場で、相談したり話し合いながら、幅広い支援ができるよう努めている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の場で、話し合いながら協働で支援できるよう努めている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月往診を受けられる体制があり、往診ではなく、他に希望のかかりつけ医に通っておられる利用者もいる。又、精神科や内科などの科によりかかりつけ医を決めておられる方もあり、それぞれ主治医と連携をとっている。歯科医の検診もある		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	毎月2つの精神科へ受診の付き添いを行っており、些細な事でも相談したり、事例検討など、精神科医との連携に努めている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回訪問看護による健康管理以外にも、24時間いつでも連絡がとれる体制がある。緊急時には、緊急でドクターや看護師がかけつけ、診察もしている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	相談員が中心となり、病院と情報交換や、週1回現場職員も面会に行っている、退院の際には、早期退院に向けてアプローチしている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医とカンファを行い、方針などについて話し合っている。又、終末期に関する同意書があり、関係者全員で方針を共有し、医師や看護師の体制もある。又、年間研修計画の中に、終末期のあり方について学ぶ機会もある		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族を中心に、関係者が話をする機会を設け、方針の共有に努めている。グループホームであるという温かい環境と寄り添いを何より大切にしながら、最後まで自分らしくを実現する為に取り組んでいる。急な変化があった時には、慌てず対応できるよう一覧を作ったりもしている	○	どんな変化にも、あわてず早急に対応ができるよう、今後も勉強を重ねていきたい
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前に自宅を訪問したり、使い慣れた家具の持参や毎日日課とされていた事、大切にされていた事などの情報収集を行い、入居後にも、見直しを行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	難聴の方が多いが、声掛けには十分気を配りながら、職員同士毎日プライバシーには注意合っている。年間研修計画の中で、プライバシー保護について学べる機会もあり実施している	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	家族からの情報や、常に職員間で声掛けの方法などを話し合い、声かけの工夫をしながら、自発的言葉を促す支援を心がけている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合わせた生活リズムを把握し、入浴、散歩、買い物などの支援はもちろん、健康面を考慮しつつ、時には昼夜逆転でも表情がよければ『らしい暮らし』と受け入れ支援している	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容院などご自身でお店を選んでいただき支援している。職員は、その人の好きな髪形を把握しており、毎日鏡を見てもらいながら、髪形についても確認してもらっている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立決めや、買い物、調理、後片付けなど、好みや能力の発揮に努めている	○ 出前や外食などの楽しみの機会を増やしたい
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好きなおやつや、行きつけのお店があり、好きな物を選んで買いに行かれている。他にも、季節の食べ物や出前、好きな場所への外食などの支援もしている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握に努め、一人ひとりにあった排泄環境や、用具を提供できるようオムツフィッターと相談しながら支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴に入られる方や、寝る前に入られる方など、希望にそえるような体制としている。他にも、菖蒲湯や柚子風呂など季節を楽しめる工夫をされており、マンツーマンでゆっくり入れるよう対応している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間は決めず、ベッドであったり、布団であったり、ご自身の寝具で就寝、日中は部屋やフロア一人ひとり希望の場所で休息されている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式記入し、生活暦を把握し個々に合わせた役割をしていただけるよう努めている。買い物、掃除、食器洗い、新聞を取り入れ配るなど、それぞれの役割があり、読書、スポーツ観戦、園芸、散歩などを楽しんでおられる		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理でお金を持っておられる方もあり、花や服など買い物へ行かされている。ほかに、買い物の希望があれば、その日のうちに一緒に買い物へ出掛けられる体制がある		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園への散歩や、スーパーや商店街での買い物、ご自宅へ帰宅、お寺参りなど日常的に実施している。毎年、京都三大祭の鑑賞などにも出かけている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と出掛けられる支援以外に、お祭りや花見など季節に応じた場所に出掛けしている。個別で行きたい場所へのアンケートも行い、実施に向けて取り組んでいる		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を設置したり、手紙や、年賀状、暑中見舞いなど送っている。毎日、家族からの電話を楽しみにしておられる方もある		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	毎日、家族のほかに、親戚や友人、町内の人など誰かの面会があり、居室でおやつや食事を一緒に食べたり、外食に出かけたりしている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日職員が見ている業務日誌に貼り出している。勉強会なども行い理解を深めるよう努めている		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての玄関に施錠はしていない。無断外出などの事故が起こらないよう、家族や職員でリスク面での話し合いも行っている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	1時間に1回全利用者の所在安否の確認をしている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	何がどのように危険なのか考えた上で、場所についての検討を行っている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ケアプランに取り入れているほか、事業所内外の勉強会などでも学んでいる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時にすぐに対応できるよう、看護師に指導してもらいながら、随時勉強会などを行っている	○	今後も、もっと深く学んでいきたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を行い、地域の方々にも参加協力していただいている。地域の防災訓練にも参加している		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族に説明後、同意をいただきケアプランに明記している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定や記録により変化の早期発見、又は24時間、病院関係者と連絡がとれる体制があり、相談対応をしている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理、内服薬説明書の確認、内服薬の服用変更時には、注意点を連絡ノートに記入し理解に努めている。他に、薬によっては、食べ合わせはいきないものもあり、それらについては別紙を貼り出している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取や乳製品摂取、日々バランスの良い食事の提供を心がけている。又、毎週、看護師に腹部の確認をしてもらい、便秘予防のアドバイスなどもいただいている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	生活習慣を大切としているため、全員毎食後に実施しているわけではないが、就寝前には実施しており、口腔内の状況に応じ実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士にアドバイスを求めながら実施している		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	勉強会を行い、理解を深める努力をしており、マニュアルもある		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器や調理器具は熱湯消毒を行っており、毎日買い物へ行く事で、新鮮な食材が選べる		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	垣根が低く、自動ドアから誰でも入れるようになっている。玄関ホールには、花が飾っており、町内の賞状なども飾っている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を開けており、外の風景が見やすい。室内には、季節の花を飾ったり、台所での調理の音や匂いなど家庭的な雰囲気作りを心がけている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子を置くなど、一人ひとり居心地の良い空間作りに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用していた家具を持参していただき、自宅と同じような環境づくりを心がけている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室内の匂いには注意をしている。換気もしているが、湿度が高いことがあるので、加湿器や空気清浄機なども設置している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じ、手すりを設置したり、照明を工夫したりしながら実施している。	○	定期的に環境について、検討する機会を設けたい
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員が情報を共有する事で、声かけや目印を検討し工夫しながら実施している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1階花壇で野菜を育てたり、花の球根を植えたりしている。玄関の椅子で休憩されたり、ベランダで洗濯物を干せるようになっており、それぞれが好きなように活動できるようになっている		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)